適正配置の具体策の検討例

№	項　目	地理的・交通状況	人口的状況	地域的状況	財政的状況	校舎の状況
4	北広島団地内で通学区域を見直した場合	北広島団地内の全児童数から見て、現状のまま４校で通学区域を見直ししても複数学級を確保することは困難である	○　広葉小学校 S58　児童数　887 人　学級数　２３ （世帯数　2,214　人口　6,809 人） H18　児童数　254 人　学級数　11 （世帯数　2,500　人口　5,569 人） ○　若葉小学校 S58　児童数　495 人　学級数　16 （世帯数　1,254　人口　3,992 人） H18　児童数　185 人　学級数　7 （世帯数　1,622　人口　2,023 人） ○　高台小学校 S58　児童数　861 人　学級数　２３ （世帯数　1,557　人口　5,373 人） H18　児童数　182 人　学級数　6 （世帯数　1,805　人口　4,369 人） ＊泉町の道営住宅で改築中（D 団地） ＊E 団地は新規入居募集を停止中 ○　緑陽小学校 S58　児童数　447 人　学級数　16 （世帯数　847　人口　2,894 人） H18　児童数　154 人　学級数　6 （世帯数　1,711　人口　4,248 人） ＊松葉町の一部地区で住宅容積率を緩和。2 世帯住宅建築が可能 ＊松葉町に民間の宅地用地がある	○広葉小学校 子どもの安全確保の運動・学校開放 ○若葉小学校 文化団体との交流 自治会の運動会・子どもの安全確保の運動・学校開放 ○高台小学校 文化団体との交流 自治会の運動会・子どもの安全確保の運動・学校開放 ○緑陽小学校 地域まつりの参加・文化団体との交流・子どもの安全確保の運動・学校開放	特になし	○広葉小学校 S４８建設 S63 大規模改修 保有教室　22 普通教室　15 余裕教室　2 ○若葉小学校 S50 建設　H6 大規模改修 保有教室　22 普通教室　15 余裕教室　5 ○高台小学校 S51 建設　H9 大規模改修（耐震） 保有教室　25 普通教室　18 余裕教室　9 ○緑陽小学校 S52 建設　H13 大規模改修（耐震） 保有教室　21 普通教室　15 余裕教室　6
5	東部小学校区を含めて通学区域を見直した場合	北広島団地内の児童数が減少傾向にあり、4 校を存続させるために東部小校区の校区見直しを行うと東部小学校が適正規模を確保できない可能性がある。			特になし	
6	北広島団地内 4 小学校を統合した場合	適正規模を確保することは可能である。しかし、統合先の学校にもよるが、現状で最大 1．2ｋm程度の通学距離が ２ｋmを超える可能性がある。高低差は約４０m。			校舎増築の必要性が考えられる。通学方法によっては費用負担の可能性ある。	
7	若葉小学校 高台小学校 緑陽小学校 を統合した場合	適正規模を確保することは可能である。 ただ、統合校にもよるが通学距離が２ｋmを超える可能性がある。また、広葉小学校は適正規模が確保できない。 高低差は約４０m。			校舎増築の必要性が考えられる。通学方法によっては費用負担の可能性ある	
8－①	広葉小学校 若葉小学校を統合した場合	適正規模を確保することは可能である。学校間は直線で約８００m､統合先によっても異なるが通学距離は最大で１．６Km 程度と考えられる。高低差は約10m。			特になし	
8－①	高台小学校 緑陽小学校 を統合した場合	将来的に適正規模を確保できない可能性がある。学校間の距離は約３３０mである。高低差はほとんどない。			特になし	
8－②	広葉小学校 緑陽小学校を統合した場合	将来的に適正規模を確保できない可能性がある。学校間の距離が直線で1.3Km 程度あり通学距離が２ｋmを超える可能性がある。高低差は 30m弱。			特になし	
8－②	若葉小学校 高台小学校 を統合した場合	将来的に適正規模を確保できない可能性がある。 学校間の距離が直線で1.2Km 程度あり通学距離が２ｋmを超える可能性がある。高低差は約４０m。			特になし	